

平成30年度を振り返って

栃木県中学校長会
宇都宮市立姿川中学校長
小池 正 巳



月日が経つのは早いもので、今年度もあとわずかとなり、校長先生方におかれましては、卒業式などの年度末行事の準備や、次年度の学校経営方針の作成に向けて、多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

今年度は新学習指導要領に向けた移行期間が始まり、趣旨の実現に向けて、一步踏み出す改革の年でもありました。また、「学校における働き方改革に関する緊急提言」の中で、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理等について、業務改善を図るうえでの管理職の役割がより重要となりました。

さて、今年度は6月14日・15日の2日間にわたり、栃木県総合文化センター等において1都9県の会員の皆様をお迎えして、「関東甲信越地区中学校長会第70回研究協議会栃木大会」を無事開催することができました。開会行事に引き続き全体協議会において、本大会の協議趣旨説明がなされ、その後、原博実氏から「Jリーグ百年構想の具現化を目指して」と題してご講演をいただきました。2日目は、9分科会において、各地区校長会の組織を挙げて取り組んだ研究成果を発表し、各都県の発表と併せて、多くの示唆を得ることができました。本大会の開催に向け、長い期間に渡り企画・準備をいただき大会の中心となって運営に携わっていただいた実行委員を

はじめ、事務局と県内の校長先生方に深く感謝申し上げます。

その他、本会の主な事業として、総会並びに研修会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、各専門部研修会、県教育長と校長会長との懇談会（6月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、理事協議員研修会（2月）等を実施しました。

また、研究発表関係では、10月に開催された全日本中学校長会研究協議会鳥取（米子）大会の第2分科会「主体的・対話的で深い学びの実現」において、芳賀地区校長会の先生方にご発表いただきました。

今年度、協議した事項として、研究振興基金の積み立ての再開、中学校教育75周年記念事業の準備委員会の立ち上げがありました。各地区会長様におかれましては、意見等を取りまとめていただきましたことに、感謝を申し上げます。

結びに、校長会の役員・理事をはじめ、154名の栃木県中学校長会の全ての校長先生方、事務局の皆様、1年間本当にありがとうございました。また、この会報を発行するに際し、原稿をお寄せいただいた校長先生方、大変お忙しい中、ご執筆くださりありがとうございました。

着任の挨拶で「校長会の組織を高め、協力体制を基盤として、風通しのよい校長会を継承していきたい」と決意表明をしました。どこまで実現に近づけることができたか分かりませんが、皆様に支えられ、ここまでたどり着くことができました。最後に、栃木県校長会のために、ご支援とご協力くださった全ての皆様方に心から敬意を表し感謝を申し上げます。

事務局だより

会員の皆様は、1年間の学校運営の総括や次年度に向けた計画策定など、特に多忙な時期をお過ごしのことと存じます。本会の1年間を振り返りますと、特に、小池正巳会長のもと6月に関東甲信越地区中学校長会第70回研究協議会栃木大会を無事に終了できたことが大きな成果であったと感じています。

県外から参加された方々からは、「温かな運営で笑顔で迎えていただいた」、「全体協議会・分科会と

も大変気持ちよく参加させていただいた」等の感想を多数いただくことができました。

平成28年度に実行委員会が発足し、事務局からも会員の皆様に、運営・準備等に様々なお願いをしてまいりましたが、会員の皆様のご尽力とおもてなしの心がこうした成果に結びついたものであり、チーム栃木の実力を実感いたしました。

今後は、栃木大会で得た成果を本会の運営や研究推進に活かしていけるよう努めてまいります。

（事務局長 半田 均）

県教委との教育懇談会

総務部長 樽井久
(宇都宮市立晃陽中学校長)

平成30年8月2日(休)、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教育委員会と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

小学校長会18名、中学校長会20名で臨み、県教委側は池田聖教育次長様はじめ14名の関係者の皆様に出席いただきました。小学校長会の福田順一会長、池田聖教育次長の挨拶の後、総務部長の樽井久宇都宮市立晃陽中学校長が提案事項を説明しました。

【中学校長会提案事項】

- 1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
 - (1) 正式採用教員の確保(欠員補充の段階的解消、臨時的任用教員経験者の採用の促進)
 - (2) 少人数指導、児童生徒指導、不登校、指導法の工夫・改善等のための教員の加配拡充
 - (3) 免許外教科指導及び臨時免許状対応解消のための非常勤講師の増員・配置
 - (4) 教育相談体制の充実・強化を図るためのスクールカウンセラーの勤務日の拡充及び資質の向上
 - (5) 地域の給食提供状況を考慮した栄養職員の配置基準の引き下げ、及び栄養職員の配置増
 - (6) 「チームとしての学校」を実現するための専門スタッフの配置促進

2 特別支援教育推進のための諸条件の整備

- (1) 特別支援学級担当教員の計画的な育成と配置
- (2) 障害者差別解消法の施行に伴う、発達障害のある生徒が在籍する通常の学級への非常勤講師の増員
- (3) 通級指導教室への加配教員の増員

3 部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化

- (1) 部活動担当教員の負担軽減をふまえた、県版「運動部活動の在り方に関する方針」の策定
- (2) 部活動指導員の計画的な配置

4 その他

- (1) 昇給への反映を見据えたより完成度の高い教職員評価システムの策定
- (2) 新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革のための環境整備
- (3) 「とちぎっ子学習状況調査」に基づく学力向上に係る施策の充実
- (4) 研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持
- (5) 地域連携教員の週休日における勤務(勤務態様)の明確化

県教委側からは本県の現状や展望を示しながら、国への要望や財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となりました。



県教委・高等学校長会との懇談会

進路対策部長 阿嶋敬一
(下野市立南河内第二中学校長)

平成30年10月16日(火)、栃木県教育会館において県教委、県高等学校長会と県中学校長会(会長、副会長、進路対策部長が出席)との懇談会が開かれ、中学校長会から、以下の主な改善事項について要望し、県教委や県高等学校長会から回答をいただきました。また、それぞれの立場における現状等を踏まえて協議や情報交換を行いました。

1 一日体験学習について

- (1) Webによる申し込みや当日の個別受付をしていただけるとありがたい。
- (2) 実施日の調整を引き続きお願いしたい。
- (3) 一日体験学習の中学校から高校への参加申込み締切日についての共通理解をお願いしたい。

2 入学者選抜の方法について

- (1) 一般選抜について
 - ① 特色選抜内定発表から一般選抜の出願までの期間を長くしてほしい。
 - ② おおよその面接終了時刻を示してほしい。

③ 学力検査は全教科50分にしてほしい。

(2) 特色選抜について

- ① 資格要件について、さらに分かりやすくしてほしい。
- ② 特色選抜受検者にも全員が学力検査(適性検査)等を受ける体験を確保してほしい。

3 募集方法について

- (1) 中高一貫校でも一般入試を実施してほしい。
- (2) 隣接県の細部協定書の発行を早めてほしい。
- (3) 募集定員割れした高校・学科の2次募集を実施してほしい。

4 その他について

- (1) 出願変更期間最終日の受付終了時刻を遅らせてほしい。
- (2) 全日制の願書の写真と学悠館高校通信制の願書の写真の大きさを統一してほしい。

県中学校長会からの「改善要望事項」について、県教委や県高等学校長会の回答や現段階での考えを伺い、意見を交換することができました。生徒のよりよい進路実現や成長を願い、それぞれの立場で改善に取り組んでいることが確認できる有意義な懇談会となりました。

地区校長会だより

宇都宮市中学校長会

宇都宮市中学校長会は、市立中学校25校と宇都宮大学附属中学校の計26校で構成されています。

現在、会員である校長一人一人が長年にわたり積み上げてきたキャリアを基に特色ある学校運営に取り組んでおりますが、平成29年から3年間で22名が定年退職を迎えるという状況になっています。

このような状況の中、新学習指導要領に基づく学校経営や、教育の今日的な課題解決と様々な教育ニーズ等々への対応を図るためには、校長会の研修機能の強化が必要不可欠であると考えております。

このため、本会では年4回の定例会で行っている報告・協議・情報交換に加え、テーマを設定し議論する場や様々な教育課題への対応力を高めるために専門家を招聘した講話なども実施しています。

第1回目では、学校の危機管理や高大接続システム改革による中学校教育に与える影響等を中心に研修を行いました。第2回目は、県立高校一日体験入学に係る事故対応や働き方改革等について研修を深

めました。今後は、本市が2012年度から実施している小中一貫教育の運営の在り方や学校の部活動方針の策定、アレルギー対応等の意見交換を行う予定です。また、どこの学校でも起こりうる生徒の自傷行為の未然防止と対応力を高めるため、臨床心理士小林順子先生をお招きし、「自傷行為にいたる心理と予防」と題した講演も計画しています。

この他、本会では、学校の抱える課題解決と実効性のある教育施策の実現のために、市教育委員会と「教育に係る意見交換会」を年3回実施しています。今年度は、学校教育推進計画やコミュニティ・スクール、小中一貫教育の小中相互乗り入れ授業等について活発な意見交換を行いました。

更に、学校現場の人的・物的教育環境の充実のために、市小学校長会や市学校管理職員協議会とともに、教育委員会との懇談会も実施しています。

今後とも、これらの取組を更に充実させ、生きる力を育む中学校教育に取り組んでまいります。

【宇都宮市立陽西中学校長 佐々木徳志】

下都賀郡中学校長会

下都賀郡中学校長会は、下野市4校（南河内中・南河内二中・石橋中・国分寺中）、壬生町2校（壬生中・南犬飼中）、野木町2校（野木中・野木二中）の、計8校の中学校長で組織された、小さな校長会です。

県中学校長会はもちろん、下都賀郡内の栃木市及び小山市校長会との緊密な連携を図りながら、「会員相互の研修を深め、共通理解のもとに正しい考え方を持って学校運営に当たるように意思の疎通を図る」こと、「各中学校の主体性を尊重しつつ、情報交換を深めて教育活動の活性化に寄与する」ことを基本方針としています。

本年度は研修テーマを、「学校評価を活用し、家庭や地域社会と連携を深める学校経営の推進」とし、「学校評価」に焦点を当てた研究に取り組んできました。各校の学校評価の実施状況や、質問項目、地域資源の活用や家庭・地域との連携につなげた事例などを比較・検討しながら研究を進めました。

その結果、特に評価の質問項目に関する改善の必要性や方向性が明らかになるとともに、自校の実態に合った、望ましい「地域資源の活用方法」や「家庭・地域との連携」について検討することができました。

会としては、持ち回りで各学校を会場に年間7回の定例会を開催しています。毎回会場校の学校経営等について研修を行った後、県中理事会や専門部からの報告、諸問題の協議及び研修、情報交換という流れで運営をしています。1市2町の学校の校長会ということで、それぞれの学校・地域の実態も異なる部分はありますが、その中で研修を進めることで、様々な課題に対して多角的に考えたり、視野を広げたりすることができる大切な機会になっていると実感しています。また、互いに忌憚のない意見交換をする中で、学校経営に関する大きなヒントを得ることもたびたびです。今後も、下都賀郡中学校長会ならではの活動を続けていきたいと思っています。

【野木町立野木中学校長 中島 聖巳】

佐野市中学校長会

佐野市は、昨年「山城サミット」が開催された史跡の唐沢山城跡・山頂・石垣、足尾銅山の鉍毒問題に取り組んだ郷土の偉人の田中正造、天明鋳物、さのまる等が有名な町です。人口は12万人弱、平成17年2月28日に、旧佐野市・旧田沼町・旧葛生町の一市・二町が合併し、小学校26校、中学校9校、計35校で校長会を組織しています。2020年4月には、施設一体型の「あそ野学園義務教育学校」(田沼西地区小中一貫校)が開校し、6小学校と1中学校が閉校します。また、その2年後の、2022年4月に、現在の葛生中学校の敷地内で、葛生・常盤中学校区の小学校と中学校が統合された施設一体型小中一貫校(義務教育学校)の開校が予定されており、4小学校と2中学校が閉校します。

校長研修会は、毎月行われる市教委主催の校長会議の後に、小中学校長研修会、小学校長研修会・中

学校長研修会を開催しています。前半の小中学校長研修会では、全市を挙げて取り組んでいる小中一貫教育の研究、また、後半の中学校長研修会では、中文連・中体連諸事項の共通理解、「あそ野学園」の開校に向けた取組、それに伴う閉校に向けた取組や「葛生・常盤中学校区小中一貫校」の開校準備委員会の取組についての情報交換を行っています。また、今年度は、地区総体前に臨時の中学校校長会を開き、総体での「熱中症対策」について話し合い、各会場への養護教諭の配置、会場まで遠距離の生徒の送迎、緊急時の対応についてなど共通理解を図りました。

今年度は、6月に関プロの第8分科会「経営課題」(時代の要請に応える学校経営の充実)において発表もあり、研修の中では小中一貫教育を中心に組み立てまいりました。これからは、「特別の教科道徳」の導入も控えていることから、「道徳教育」を中心に組み立てようと考えています。

[佐野市立南中学校長 秦 慎一]

私の学校経営

「ワン ステップ アップ」の教育
— 一歩改善・一歩向上を目指して —

芳賀教育事務所長 関 栄二
(前茂木町立茂木中学校長)

本校は昨年度、3つの中学校が統合し新しい茂木中学校としてスタートしました。環境の変化による登校渋り等の不適應が心配されました。そこで、生徒の様子をよく観察し、生徒の気持ちに寄り添った指導・支援を図ることを確認しました。その結果、教職員の心配を振り払うかのように頑張る姿が随所に見られました。今年度は、昨年度の実践をさらに前へ進めるため、「ワン ステップ アップ」(一歩改善・一歩向上)による教育を推進し、下記の3点を中心に取り組んでいます。

1 心の育成

次の3つの努力点をとおして心の成長を促し、本校では「心の育成」を図る大切なものと捉え日常の生活指導を行っています。

① 笑顔であいさつできる生徒

② 朝の読書をスタートに、落ち着いて学習に取り組む生徒

③ 木造校舎に感謝し清掃がしっかりできる生徒

2 生徒のための学校行事

入学式や卒業式など儀式的な行事以外は、生徒の手による生徒主体の活動となるよう、教職員間で共通理解を図り指導しています。運動会や桔梗祭では、生徒の意欲的な工夫ある活動と共に学級の団結力や人間関係の構築に繋がっています。

3 生徒主体の部活動

教職員の指導の下、生徒主体の部活動になるよう取り組んでいます。本年度は、吹奏楽部が全国大会へ出場し金賞を受賞しました。生徒自らミーティングを重ね、目標をもって活動することや気持ちを一につに練習することを確認するなど、主体的な取り組みを大切にしています。



「夢や希望のある（もてる）学校」を創る

小山市立間々田中学校長 佐藤 義明

1 学校教育の特質を活かす教育

本校の学校経営の基調は、「学校教育の特質『集団の中で学ぶ』を生かして、集団と個を成長させよう。」「自主性・主体性を伸ばすために、『なすことによって』学ばせよう」と謳っている。この基調の下、学校経営方針で示す「夢や希望のある（もてる）学校を創る」ための教育活動を展開してきた。もちろん、その主役は生徒である。

2 「自らの手で学校・学級生活を創る力」を育てる

生徒が夢や希望をもって学校・学級生活を送るためには、自らの手でその生活を「創る」力を育てなければならない。生徒の中の自主性、主体性、自主・自立（律）の精神や自治的な資質能力である。

3 話し合いで決め、実行し、責任をもつ経験を積む

学級活動を核に、様々な単位で数多くの話し合いの経験を積み、集団や個の成長に繋がるよう、生徒が「決めたことを責任をもって実行する」教育を大切にし



てきた。培われた自発的な態度や学級内の自治、折り合う力や協働への意欲は、道徳的価値や行為、習慣と相まって生徒の心を耕し、豊かな人間性や社会性の育成に繋がっていく。

4 「間中しぐさ」

「間中しぐさ」

とは、生徒の手による生徒のための行動指針である。

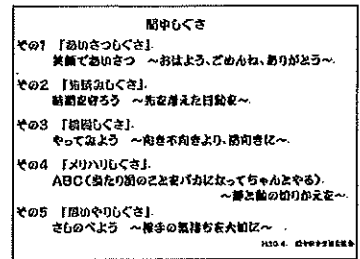
教師の言葉は一言

もない。生徒会の発意から、学級活動を経て生徒会を中心にまとめた。生徒は（実は教師もだが）、各しぐさを具体的な行動へと降ろして生活している。

5 そして、今…「卒業プロジェクト」

3年生は今、最上級生としての役割を終えるに当たり、学校や後輩に残すものを有形無形に囚われずに話し合っている。今年は、何が残るだろうか…。

地域清掃、後輩との交流、授業支援、物品製作など様々。自分たちで決めて実行する姿に、「管理」中心の学校経営から、「育てる指導」中心の学校経営へと船首が向きはじめたと、独りごちている私がいる。



本校における「特色ある学校づくり」

矢板市立矢板中学校長 小川 光 正

矢板市では、「特色ある学校づくり推進事業」として毎年交付金が予算化されており、本校ではそれを活用して「生徒一人一人が自分の将来に大きな希望と夢をもち、その実現のために計画を立て、よりよい自己実現を図ろうとする心を育てる」ことを目的に、次の4つの事業を行っている。

- 「夢いっぱい」推進事業
- 「花いっぱい」推進事業
- 「元気いっぱい」推進事業
- 「ふるさと学習」推進事業

ここでは、このうち「夢いっぱい」推進事業のうちの、さらに2つについて紹介する。

1 総合的な学習の時間における「職業人に聞く」

職業が多種にわたるように約30人程度の講師を招待し、屋台方式で講話を聞く。

この中で実演や体験、質問の時間を確保し、生

徒の興味・関心を喚起するよう工夫しており、将来の夢をもたせることにつながっている。



講師の先生方

美容専門学校の先生による実演

2 電光掲示板の設置（高校生とのコラボ）

本校の近くに県立矢板高等学校があり、外部から来るお客様に本校をよりアピールしようと、電子科・機械科の生徒と協同で作業し、電光掲示板を製作、玄関に設置した。このことでより高い技術に触れたり体験したりでき、工業に対する興味関心を高めることができた。



組み立て



完成



矢高生と記念撮影

新任校長の一言

新任校長として

日光市立中宮祠中学校長 佐々木 洋

4月2日、職員会議の冒頭、教職員に初の学校経営方針の話をした。前任の校長先生の資料を参考に施政方針を作成した。自分なりに消化して自分の言葉で示そうとしたが、実態も環境もよく分かっていないので、大変だった。「バックアップとカバーリング」、30年間の野球部の指導で、よく使用した言葉を、目指す教職員像に何とか結びつけた。

小中併設校としての合同入学式。初の校長式辞に臨むにあたり、過去の式辞を見て驚いた。新入生一人一人の氏名が盛り込まれていた。さらに小学生向けと中学生向けの言葉があった。小学1年生に語りかける経験なんて過去にない。過去の式辞や書籍を参考に必死に考えた。「昨日より今日、今日より明日」。結局、担任だった頃よく使った言葉を式辞に盛り込み、緊張しながらも何とか読み上げた。

校長として初の修学旅行は、中学生3名に引率者

4名、家族旅行のようであった。行きも帰りも新幹線のグリーン車両を7名で独占した。過去に生徒指導主事として引率した数々の修学旅行とは、まるで違った経験であった。

4年毎に開催されるワールドカップロシア大会と校長として初の共同訪問が重なってしまった。寝不足が続き不利な状況ではあったが、教職員と児童生徒が一丸となって粘り強く取り組み、たくさんのお褒めの言葉をいただくことができた。

いろは坂の通勤では、初めて見る自然の光景に何度も感動する。白樺に囲まれた校庭で遊ぶ鹿に出会うこともあれば、ヒメマスに標識をつけ放流もする。地元の方々の力添えにより、ほぼ学校専用のスケー

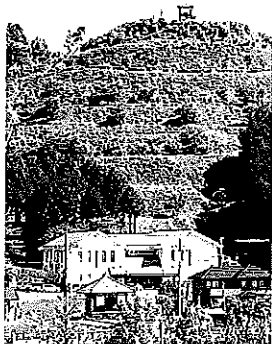


トリンクだってある。初の中宮祠勤務、新任校長としての毎日は、まさに驚きと感動の連続である。

新任校長として

栃木市立皆川中学校長 森 加 奈 夫

皆川中は敷地内に藤川という川が流れ、校舎側と校庭とが「希望の橋」で結ばれています。4月、藤



川沿いに桜が咲き、その後方には皆川城址が学校を見守るように構えています。このようなすばらしい自然環境に恵まれた学校に、校長として喜びと職責の重さに不安を抱きながら赴任しました。

本校は、生徒数93名の小規模校で、学区内には一つの小学校と、栃木特別支援学校があります。この中学校・小学校・特別支援学校で交流を持つ活動『三校交流会』が年に2回実施されます。第1回は5月29日に栃木特別支援学校に中学生全員と小学校6年生が集合し、約1時間の班ごとの活動に取り組

みました。この活動では、中学生の班長が事前に特別支援学校を訪問し担当の先生と打合せをもちます。第1回交流会当日は、特別支援学校の先生を中心に進めていきながら、約3分の1を中学生が主導権をもち活動していきます。その日の放課後、中学生の班長は再び特別支援学校を訪問し、反省等をしながら第2回の計画を立てます。第2回は、9月18日に皆川中に特別支援学校生と小学校6年生に来ていただいて、行われました。班ごとに分かれ、中学生を中心にゲームや貼り絵の制作などの活動をして、三校の児童生徒の交流を深めることができました。

このような活動を通して、人間性を高め、障



害の有無に関わらず、誰もが仲よく過ごせる学校・社会の実現を目指してまいります。